

1. 基本情報

- (1) 国名：モザンビーク共和国（以下、「モザンビーク」という）
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：ナンブラ州リバウエ郡
- (3) 案件名：ナテテ橋梁建設計画
(The Project for the Construction of Natete Bridge)
- (4) 計画の要約：本計画は、ナカラ回廊上のナテテ川において、激甚化する豪雨に耐え得る橋梁等を整備することにより、同回廊の気候変動に対する強靱性及び利便性の向上を図り、もって同回廊沿線地域の経済社会開発に寄与することを目的とする。

2. 計画の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義

モザンビークは、LNG 及び豊富な鉱物資源を有する資源国であり、2023 年 5 月には岸田総理（当時）及び官民ミッションが同国を訪問し、同年 10 月には穂坂政務官（当時）がナカラ港完工式に出席するとともに、2024 年 8 月の TICAD 閣僚会合では辻外務副大臣（当時）とゴンサルヴェス外務協力副大臣との間で会談が行われるなど、二国間関係の強化に向けたモメンタムが高まっている。また、同国では、日系企業が参画する LNG 開発事業が進んでおり、LNG 輸入先の多様化という我が国のエネルギー安全保障の観点からも、重要なパートナーである。

我が国は、これまで、TICAD6 で表明した三重点回廊（東アフリカ・北部回廊、ナカラ回廊、西アフリカ成長の環）の一環として、円借款で整備したナカラ港を起点に、アフリカ南東部の内陸国へと続くナカラ回廊上のインフラ整備を進めてきた。本計画を通じてナカラ回廊の幹線道路上において災害に強い橋梁を建設することは、ナカラ回廊の利便性向上に資するものであり、高い外交的意義を有する。

我が国は、対モザンビーク国別開発協力方針において、モザンビークが有する豊富な鉱物・エネルギー資源の輸送路として重要なナカラ回廊開発を含む地域経済活性化を重点分野としている。その一環として、ナカラ回廊及び周辺地域における社会基盤整備を含む包括的な協力を行うこととしており、回廊上の主要幹線道路上にある橋梁を整備する本計画は、右方針に合致する。

- (2) モザンビークにおける運輸交通セクターの現状・課題及び本計画の位置付け

モザンビーク北部には、ナカラ港からマラウイ、ザンビアへと続くナカラ回廊がある。独立当時から開発が遅れている同国北部は、石炭や天然ガス等のエネルギー資源、農業に適した広大な土地を有しており、同回廊の整備は、生産物の輸送や流通を通じた地域開発及び地域統合促進の観点から期待されている。

本計画の対象であるナテテ橋は、同回廊上の国道 13 号線上のナテテ川に架かる橋長約 40m の橋梁である。平成 12 年度無償資金協力「第二次幹線道路橋梁再建計画」で整備されたものの、2020 年～2021 年にかけた雨季の大雨・洪水により損傷

を受け、河川中央の橋脚沈下、橋脚上で上部工の変形が生じている。現在は仮設橋（ベイリー橋）により暫定的に通行が可能であるが、幅の狭いベイリー橋への衝突事故や大型車両通行による過負荷及び両橋台周辺の護岸侵食も起きている。近隣には迂回路が無く、同橋が不通となった場合にナカラ回廊の活用を妨げる要因となるため、架け替えが急務である。これに対して、本計画では、豪雨に対してより強靱な設計とし、安定的な交通の確保を行う想定である。

同国では、「政府 5 か年計画（2020～2024 年）」の戦略分野として「経済社会インフラ」を設定し、道路等の質の高いインフラが経済活動を促進し国内各地域の統合を進めるとしている。また、「新道路セクター戦略」（2015 年 11 月）では、道路開発における重要戦略として道路網強化を上げており、ナカラ回廊は国家基幹道路網の主要幹線の一つとなっている。

3. 計画概要

* 協力準備調査の結果変更されることがあります。

(1) 計画概要

① 計画内容：

ア) 施設、機材等の内容

ナテテ橋（片側 1 車線、橋長約 40m、幅約 10m）、取付道路（両岸約 350m ずつ）、両岸の護岸工事、既存橋及びベイリー橋の撤去工事

イ) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容

詳細設計、入札補助、施工・調達管理、運営・維持管理等にかかる技術指導

② 期待される開発効果：

クアンバーナンプラ間の所要時間が 8 時間（通行不能による迂回時）から 5 時間 50 分（通行可能時）に減少し、交通の円滑化及び輸送コスト削減への貢献が期待される（橋梁利用者は、年間約 160 万人。モザンビーク、マラウイ及びザンビアの 3 か国に跨がるナカラ回廊地域の人口は約 4,500 万人。）。

③ 計画実施機関／実施体制：

実施機関：モザンビーク道路公社（ANE：National Roads Administration, Public Institution）

監督組織：公共事業住宅水資源省（Ministry of Public Works, Housing and Water Resources）

④ 他機関との連携・役割分担：なし

⑤ 運営／維持管理体制：整備した橋梁の維持管理は、ANE のナンプラ支局が担う。ANE 本部は、本計画の実施・維持管理の監督及び必要な技術的な知見等の支援を行う。

(2) その他特記事項：

- 環境社会配慮カテゴリ分類：B
- ジェンダー分類：GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）

4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

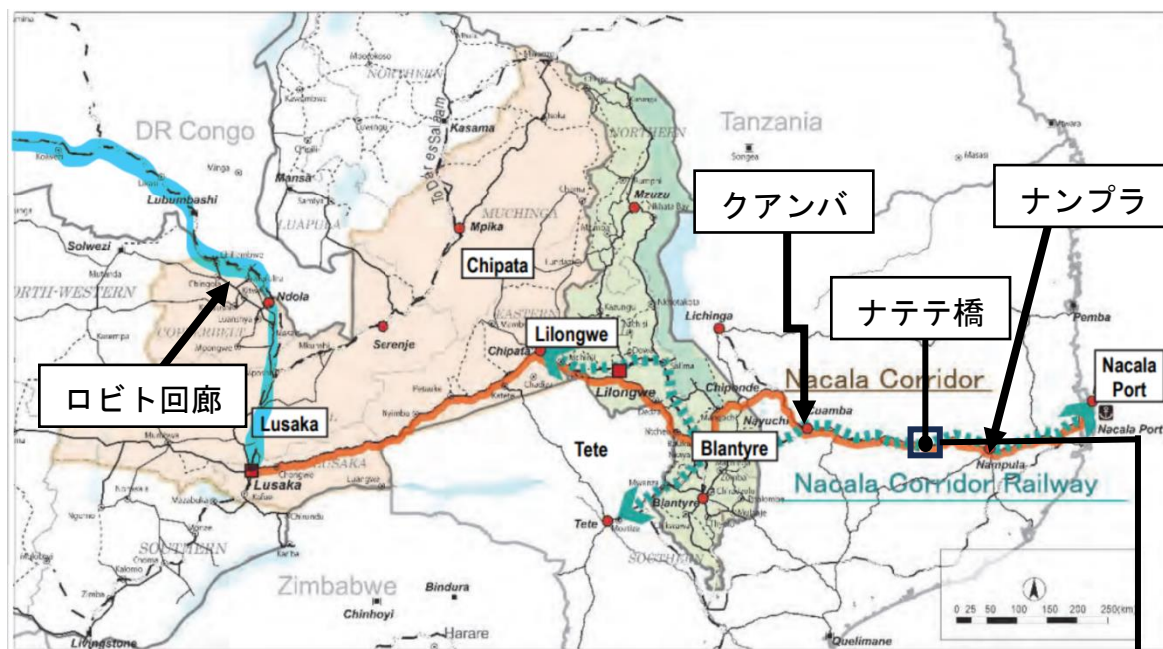
平成 25 年度対ギニア無償資金協力「国道一号線橋梁改善計画（カアカ橋）」（事後

評価：2020 年度）では、瑕疵検査期間中に、年間平均気温の急激な上昇を原因とする路面の流動わだちが見つかったため、アスファルトコンクリート舗装版の撤去及びコンクリート舗装を実施するに至る等、異常気象及び気候変動を念頭にレジリエントな設計・施工を行う重要性が明らかになっているところ、本計画では、平均気温の上昇によるサイクロンの巨大化・頻発や豪雨の一層の激甚化も想定範囲に含めた設計を行う予定。

以 上

[別添資料] 地図「ナテテ橋梁建設計画」

地図「ナテテ橋梁建設計画」



出典：JICA「アフリカ地域ナカラ回廊総合開発（ザンビア・マラウイ）にかかる情報収集・確認調査」ファイナルレポートより JICA 作成



出典：Google Maps（地図データ©2024 Microsoft）より JICA 作成